

(事後評価)

テニュアトラック普及・定着事業
(実施期間：平成 23 年度～令和元年度)

実施機関：宮崎大学（総括責任者：池ノ上 克）

(1) 評価結果

総合評価	制度設計・ 組織体制	実績・目標達成度 (具体的方策、成果等を含めて)			機関として テニュアトラ ック制を継続 する仕組みの 構築
		目標達成状況	平成 27 年度 公募事業で採 用されたテニ ュアトラック 教員の公募・ 選考・採用、 中間審査、自 立的研究環境 の整備及びテ ニュア審査	平成 27 年度 公募事業で採 用されたテニ ュアトラック 教員の研究成 果・実績	
S	s	a	a	a	s

総合評価：S(高く評価できる)

(2) 評価コメント

学長の強いリーダーシップの下、重点研究領域を整備してその方針に沿った研究分野の教員の充実を目的として、全学組織「テニュアトラック推進機構」に一本化されたテニュアトラック制を実施した。機構と部局の密接な連携と、3名のメンターからなるトロイカサポーターとコーディネータのきめ細かな組織的なケアにより、全学的な人材育成方針に沿ったテニュアトラック教員の育成を行った。制度の周知と理解に積極的に努めており、テニュアトラック教員の活発な研究活動が当該機関の研究活動活性化に繋がる好循環を生み、テニュアトラック制が人文社会科学系、看護学系を含めた全学部で普及している。また、3年度毎に学外有識者による制度実施状況の外部評価を行い、制度改善を図っている。平成 23 年度より自主的な取組を含めて 19 名のテニュアトラック教員を採用しており、補助事業が終了した後もテニュアトラック制を継続することを決定している。中規模地方大学のロールモデルとなるものとして高く評価できる。

・**制度設計・組織体制**：機関と部局の連携の下、重点的教育研究分野のリーダーとなるテニュア人材を育成するテニュアトラック制として全学で一本化されており、優秀な若手人材獲得・育成に有効に機能する仕組みとして高く評価できる。

・**目標達成状況**：全学組織「テニュアトラック推進機構」と部局との密接な協働の下、テニュアトラック制は一本化された制度として全学で実施されており、自主的取組により毎年 2 名が継続的に採用されている。学外有識者による外部評価を基に、不断の制度改善が行われており、制度実施が研究力向上に繋がる好循環を生んでいることは評価できる。

・**平成 27 年度公募事業で採用されたテニュアトラック教員の公募・選考・採用、中間審査、自立的研究環境の整備及びテニュア審査**：高い研究能力、豊かな国際性、研究ネットワークを構築する能力、高い教育能力の涵養を理念として掲げ、外国籍研究者を含む 3 名のトロイカサポーターによるきめ細かなメンタリングとコーディネータのサポートの下、教育経験も含めた組織的な育成が図られたことは評価できる。しかしながら、応募者数の少ない人事については改善を期待する。

・平成 27 年度公募事業で採用されたテニュアトラック教員の研究成果・実績：採用された 5 名のテニュアトラック教員はそれぞれの研究分野で活発な研究活動を展開し、国際的に評価できる質の高い研究発信を行い、内 2 名は関連分野での賞を受賞する等、その活躍は当該機関の研究活動活性化、国際化を促した。これらの研究実績は評価できる。

・機関としてテニュアトラック制を継続する仕組みの構築：テニュアトラック教員の活躍が、機関の研究活動活性化と全学での制度理解に繋がる好循環を生む中で、テニュアトラック制は定着しており、今後も年 2 名程度の採用を予定している。令和 2 年 1 月には「テニュアトラック推進機構」の機能を「キャリアマネジメント推進機構」に組み入れて制度を継続している。継続性のある全学的取組として高く評価できる。

テニュアトラック普及・定着事業 事後評価

<https://www.jst.go.jp/shincho/hyouka/tenure.html>

北海道大学	A	
東北大学	A	
筑波大学	S	
千葉大学	A	
東京農工大学	S	
東京工業大学	B	
東京海洋大学	A	
電気通信大学	S	
新潟大学	A	
金沢大学	A	
信州大学	A	
豊橋技術科学大学	A	A
大阪大学	A	
神戸大学	A	
岡山大学	B	
宮崎大学	S	
大阪府立大学	S	
早稲田大学	B	
国立遺伝学研究所	S	S
12-Mar-21		